

保存区候補地評価表

St		1	2	3	4	5	海中公園地区	海中公園地区	海中公園地区	海中公園地区
場所		アーサービー礁湖南部	竹富島西水路	ウラビシ礁原	小浜島南	新城島下地礁池	竹富島タキドングチ	竹富島シモビシ	黒島キャングチ	新城島マイビシ
中心位置	緯度	24° 17.827	24° 18.630	24° 16.052	24° 18.498	24° 13.205	24° 20.400	24° 18.153	24° 13.800	24° 14.509
	経度	124° 09.153	124° 04.328	124° 01.891	124° 00.355	123° 54.779	124° 04.000	124° 02.799	124° 02.000	123° 55.809
地形		礁湖底	離礁	礁原	礁湖底・マウンド	礁池離礁	水路・礁原	礁原・礁斜面	水路・礁原・礁池	礁湖離礁
底質		砂礫	岩礁	枝状礫堆積	枝状礫・岩礁	岩礁・砂礫	岩礁・砂礫	岩礁・砂礫	岩礁・砂礫	岩礁
平均水深(m)		1-2	1-4	1-2	1-5	1-4	1-5	1-10	1-5	1-2
潮流		やや強い	やや強い	やや強い	弱い	弱い	強い	弱い	強い	弱い
被度の 変遷 ¹⁾	1980年		卓状大型							
	1991年		未調査							×
	2002年		卓状特大型			卓状大型等				卓状大型
優占種		ユビエダハマサンゴ	クシハダミドリイシ	多種ミドリイシ	枝状ミドリイシ	クシハダミドリイシ	卓状ミドリイシ	枝状コモンサンゴ・枝状ミドリイシ	枝状ミドリイシ・エダコモンサンゴ	卓状ミドリイシ
シルトの影響 ²⁾										
水温上昇 ³⁾				(黒島北方移設先)						
利用者の認識 ⁴⁾				(漁業)						
幼生定着数	定着板 ⁵⁾				-	-			-	-
	着床具 ⁶⁾						-	-	-	-
稚サンゴ密度 ⁷⁾							-	-	-	-
幼生供給度 ⁸⁾									-	-
オニヒトデ出現状況 ⁹⁾										
コメント		礁湖への幼生供給度は中位。被供給度は低い。高水温耐性が高いため、ユビエダハマサンゴが繁殖か。	礁湖への幼生供給度は低い。3m以上の卓状ミドリイシが複数ある。潮通し良好なため、高水温の影響を受けにくい。シルトの影響あり。	礁湖への幼生供給度は高い。被供給度は着床数からみると高い。多種のミドリイシ類が生息する。	礁湖への幼生供給度は低い。被供給度は高い。枝状ミドリイシ高被度域の面積が極めて広い。	礁湖への幼生供給度は低い。被供給度は着床数からみると高い。高水温になりやすい。クシハダミドリイシが優占するが、地形が変化に富み、多種ミドリイシ類が生息する。	礁湖への幼生供給度は低い。被供給度も低い。礁原部では高水温になりやすい。シルトの影響あり。	礁湖への幼生供給度は低い。被供給度も低い。シルトの影響あり。	礁湖への幼生供給度、被供給度は不明。	礁湖への幼生供給度、被供給度は不明。3mの卓状ミドリイシがみられることから、高水温の影響を比較的受けにくい。

1) 被度 × :粗被度(5%未満)、 :低被度(5-25%)、 :中被度(25-50%)、 :高被度(50%-)、1980年は環境庁サンゴ分布図から推定
 2) :シルト分布地点から2km以内、 :シルト分布地点から2km以上、環境省広域モニタリング及び自然再生調査(2002)結果
 3) 30 以上水温継続時間: :8時間以上、 :4時間以上8時間未満、 :4時間未満、瀬岡教授シミュレーション結果
 4) :あまり利用されていない、 :利用されている、 :よく利用されている、自然再生調査委員会資料(2003)
 5) :1-5、 :5-10、 :10- /100cm²定着、野島助教授2004年調査結果
 6) :-1、 :1-2、 :2- /1着床具 定着、自然再生調査(2004)結果
 7) :1-5、 :5-10、 :10- /m²、自然再生調査(2004)結果
 8) :幼生礁湖内残留率25%未満、 :幼生礁湖内残留率25%以上50%未満、 :幼生礁湖内残留率50%以上、瀬岡教授シミュレーション結果より推定
 9) :出現数が増加、 :出現数が減少、 :出現なし、環境省オニヒトデ調査結果(2004)